

3社連携で「恋の三寺めぐり」

和大生が紀州鉄道の活性化策発表

経営環境の厳しい地方鉄道の活性化に向け、紀州鉄道、和歌山電鐵（和歌山市・紀の川市）、水間鉄道（大府員塚市）の地方鉄道3社と和歌山大、国土交通省近畿運輸局が連携した「鉄道・地域活性化プロジェクト」で、活性化策を考えた

和大生が同大学のオープンキャンパスでアイデアを発表した。地方鉄道3社連携策として、奈良時代版シンデレラストoryで知られる宮子姫にゆかりのある道の「交通まちづくり調査研

究」を受講する学生と大学院生ら9人で各鉄道会社の基礎データを収集・分析し各鉄道の沿線調査、先月にヒアリング調査や現地調査など実施。紀州鉄道には2年生の土橋規耶子さん、小阪奈々さん、大学院生の井口智史さんらが訪れて調査した。

ストーリーで知られる宮子姫とゆかりのある道成寺、良縁の御利益で知られる和歌山電鐵日前宮駅近くの日前・國懸神宮、恋人の聖地に認定されている水間鉄道観音駅近くの水間寺の恋の3社と御坊、貝塚の寺内町を回るアイデア。ほか「泉州・和歌山パス」をはじめ、各社の使用済み乗車券を提示すれば残り2社を特別価格で乗車できる「3鉄道の乗車券交流」、インバウ

ンド観光客を取り込むための「SNS上での拡散を企図した乗車券」、3路線の時刻とそれに連携するJR線や南海線の時刻を掲載した「3鉄道通しの時刻表」など提案した。

紀州鉄道独自の活性化策としては、廃止車両の再利用を考えた。キテツ2号のレストラン利用は、紀州鉄道で以前運行していた廃止車両が大分県で民宿兼レストランとして再活用されていることが事例。紀伊御坊駅の観光案内所は、京都市岡崎公園内で京都市電の廃止車両を観光案内所として利用していることを下にプランをまとめた。

紀伊御坊駅の大串昌広駅長は「若者ならではの感覚でさまざまな斬新なアイデアを考えていただきうれしい限り。参考にさせてもらおうと思います」と話していた。